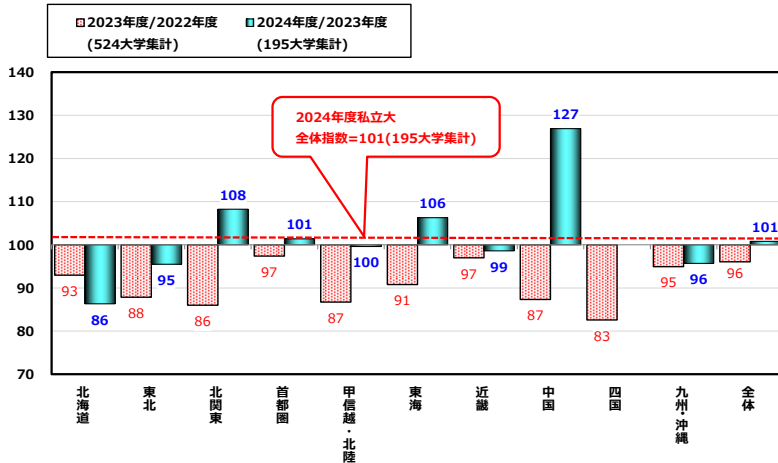


※本文中の( )内の数値は、志願者数の前年度対比指数を表します。

## ◎地区別志願状況・合格状況

### □志願者数は中国が大幅増加、北関東が増加だが、北海道が減少

#### 〔私立大一般選抜 地区別志願状況〕



大学の所在地別の志願状況では、発表の少ない四国を除くと、中国(127)は大幅増加、北関東(108)は増加、東海(106)はやや増加ですが、北海道(86)は減少、東北(95)、九州・沖縄(96)はやや減少です。

なお、現時点では、北関東は5大学、甲信越・北陸は7大学、中国は4大学、四国は未集計となっており、集計大学数が少ない地区については、参考としてご覧ください。

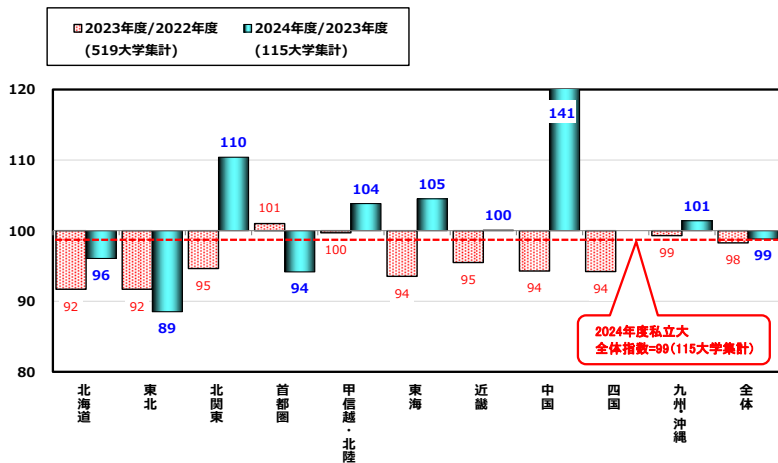
募集人員の多い大規模な総合大学が所在する3大都市圏の動向について見ていきます。

首都圏(101)は私立大全体指数と同じですが、東海(106)はやや増加、近畿(99)は微減となっています。東海は、現時点で志願者数が確定した募集単位での集計では中部大、愛知淑徳大などで大幅増加しており、これが地区全体のやや増加に繋がっています。コロナ禍の収束により首都圏や東海圏への受験生の流れが戻りつつあることがわかります。

中国の大幅増加は広島修道大の新しい入試方式の導入や、入学検定料の割引制度導入で増加したことが地区全体の増加の一因です。一方で、北海道は旭川大が公立大学化したことにより集計から除外されたことが減少に繋がっています。

### □合格者数でも中国が大幅増加、北関東が増加だが、東北が減少

#### 〔私立大一般選抜 地区別合格状況〕



左のグラフは、私立大一般選抜の地区別の延べ合格者数の前年度対比指数の過去2ヶ年を表したものです。なお、現時点では、四国は未集計ですので、参考としてご覧ください。

四国を除く地区別の合格状況では、中国(141)は大幅増加、北関東(110)は増加、東海(105)、甲信越・北陸(104)はやや増加です。一方で、東北(89)は減少、首都圏(94)、北海道(96)はやや減少です。その他の地区では前年度並となっています。

系統別と同じように、「合格者指数－志願者指数」の値を見ると、中国(+14)、北海道(+10)で大きく競争緩和しています。一方で、東北(-7)、首都圏(-7)では競争激化が見られます。